

本日
古今袖鏡
完

細川潤次郎著



特31
875
古今袖鏡
一本

004421-000-3

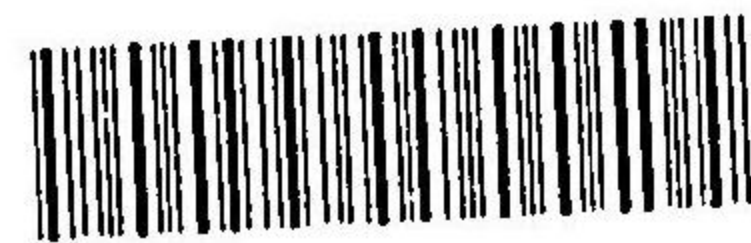
特31-875

古今袖鏡

細川 潤次郎 / 著

M8

ACE-0923



875

明 治 六 年 官 許

古
今
袖
鏡

使
六
七
八
歳
小
兒

諸
百
廿
二
朝
故
事

古
今
袖
鏡

細川潤次郎著

世
界
の
國
乃
は
あ
り
ハ

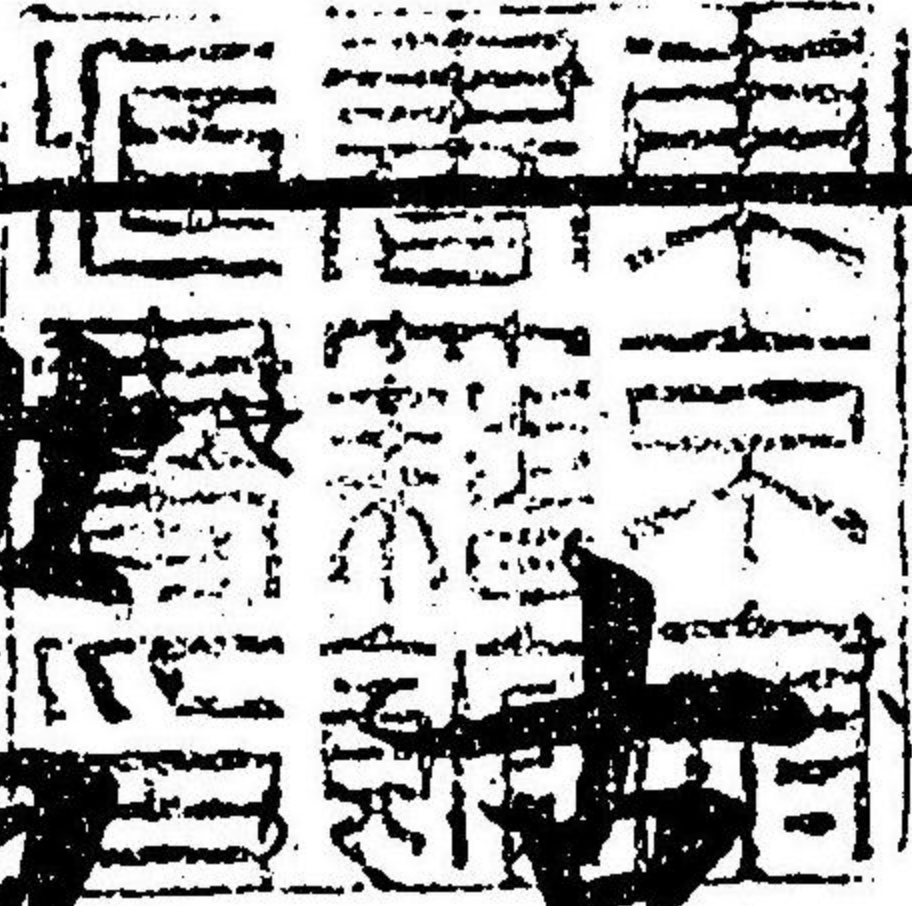
賢
具
け
神
の
一
ら
は
ハ

い
つ
も
神
代
の
ふ
と
ハ

古今袖鏡

一〇一

特31
875



古今袖鏡

細川潤次郎著

世界の國乃けありハ

賢具け神のーカミ

いつし神代のふーカミ

何らあり一 同 一 話を呈
 事跡の始末備ふに
 おも又不思議の事
 多く常の教となし

一 故 一 夫を 一 閣
 つもせ 我國 日本の人
 皇初代 神武帝 日向
 の國より 奉け 又 東

諸國しよこくを打靡うちまびけ長髓ちゆうそい彦ひこ
 と諸しよの賊そくを平たいけ大や
 和まとなまじ、檀原かいらあての御ご
 即位そくゐハ正ただ一た記き録ろくの始はじめ

なり夫ハそも皇す續つく御子ごこ
 や清子せいこ、綏靖すゐせい安寧あんねい
 懿德帝いとくてい、孝昭かうせう孝安かうあん孝かう
 靈帝まいてい、孝元かうげん開化かいけ崇神帝すじんてい

垂仁帝すゐにみよる景行帝けいこうてい此この
時とき皇子みこ日本やまと武東たけあづまの夷えみ
を征伐せいばつし成務せいむ天皇てんわう土地とち
を分割びくわくし支配しはいの法はうを立給たてたまふ
代よ割り支配しはいの法はうを立給たてたまふ

仲哀崩ちやうあいほうして御遺腹おんいぶくの
應神おうじん生なまされ皇みかど
后ごう攝政せつせうし給たまひて三韓さんかん
までまも從したがり應神おうじんの頃ころ

王仁といふ人あり論語傳
 けりて聖の道の本となす、
 仁徳實有仁有りて三年
 於年貢ゆるり殆ひ民の

竈も賑之り履中の次ハ
 及正帝允恭安康雄畧
 帝清寧顯宗仁賢帝
 武烈繼體安閑帝宣化

の次ハ欽明帝、百濟の國

よ主献したる、佛書ハ佛

法最初なり、敏達用明宗

峻帝、此御時小物部の守

屋と蘇我の軍、何の帝ハ

馬子、謀及りて勿體奈

くも賊の手、りり孫を

因果とは申も中、恐何り

推古女帝ハ既戸を太

子少ナリテ憲法を作リ

短少そ肝要なる舒明の

后皇極帝、蝦夷入鹿を

誅戮一男小勝る績なり

孝徳の世は年號也

このも出来様一の政府の

事も定まり、齋明ハ皇

極二度目の名天智此時
 階級の法や戸籍の法
 も立つ、弘文帝、天智の
 子、叔父の天武と戦ひて、

丁天武の朝とある、此人倫
 の大變を、世り壬申の亂
 とり、持統天皇女天皇
 文武の次の元明と元正天

皇^{ミコ}皆^{みな}女^メ帝^{ミカド}、聖^{ホギ}武^ムの次^{ツギ}の
 孝^{カウ}謙^{ケン}、淳^{ジュン}仁^ニ帝^{ミカド}と遷^{ウツ}、
 遣^ヤ久^ク二^ニ度^ド目^メ稱^{キョウ}德^{トク}天^{テン}皇^{スミ}と、
 い^いつ^つる^る清^{スミ}身^ミの女^メ帝^{ミカド}まで道^{ミチ}鏡^{カガミ}

法^{ホウ}師^シと寵^{チュウ}愛^{アイ}、帝^{ミカド}位^イも
 授^ケく^くる^る了^りしと宇^ウ佐^サ大^{ダイ}神^{シン}の
 御^ミ威^イ靈^{レイ}と和^ワ氣^キ清^{スミ}磨^マり直^{ちよく}
 言^{コト}す^す國^{クニ}の基^{もと}に定^{さだ}ま^まり、

徳清和帝清和源氏の元とくせいわいていせいげんげん

祖そなり陽成光孝宇多天やうせいこうかうてん

皇醍醐八景原道真を用こうたいごほっけいげんみちまをもち

以も終はと終はなり朱雀の朝すざくのみけ

将門と純友しょうもんじゆんともなり亂らんを

なげ天慶中てんけいちゆうちゆうの事ことなり世よ

小天竺てんてんぢゆうの乱らんなり村上冷むらかみさむい

泉いづみ圓えん融ちゆう帝てい花くわ山ざん一條いちじゆう三條さんじゆう

帝てい後ご一いち條じょう帝てい後ご朱しゆ雀さく
 帝てい後ご冷れい泉せん帝てい後ご三さん條じょう白はく
 河くわ堀ぼり河くわ鳥と羽う崇そ德とく近この衛ゑ崩そう
 後ご白はく河くわ鳥と羽う上じやう皇かう小せう立たつ

ら進しんて崇そ德とく上じやう皇かう懌しやくに
 遂つひり干かん戈くわと動うごきて保まも
 元げんの亂らんとあり少せう多た二ふた條じょうの
 時とき且また謀む反はんせし藤ふぢ原はら氏うぢを伐うち

下より平清盛威り誇り武
門漸く盛ると王室次第小
よりちり六條高倉安徳帝
此時源氏蜂起して頼朝

義経義仲の兵は迫られ平
家共筑紫の波り沈み
皇統別小後鳥羽とて京
都より立てて権力は皆鎌倉

の物とある、土御門帝順徳
 帝、仲恭帝の時までと源
 家の陪臣北條氏我々
 自傳限りなく天子を廢

上皇を外り遷して憚
 り、後堀河帝四條帝、
 後嵯峨天皇后深草龜
 山後宇多の御時小支那

の元もとありあ冠かんむりををななんん此この時とき心こころ條じょう

時とき宗むねくく兵へいとと出いてて攻せめ戦むすふふ新あらた

もも風かぜ波なみ立た起たりり出いてて

還かへりり只ただ三さん人にん以もつ弘ひろ安やすのの軍ぐんとと歴た

史しにに耀かくく譽ほなりり伏ふ見みのの次つぎハ

後ご伏ふ見み帝てい、後ご二ふた條じょうのの次つぎ花はな

園その帝の、後ご醍たい醐ご天てん皇みかど北ほ條ふり、

積つもるる不ふ平へいとと洩もれれとと謀はかりり

事と洩らされて高時京都
小攻入は帝ハ等置不道じつ
夢ろ賚比一忠臣の楠氏を
頼みまは北條方ハ別ふ又光嚴

帝と押立る此北朝の始
よて南北朝の分是口新
田足利追々了義兵と起
一高時と滅一日出度間

もろく尊氏命たうらうぢめいを拒ニみ我わがを
追討つゐたうの兵へい利りすくりて正成まげりげ
討死うちいしつゝもろくが軍ぐん不吉野ふきちのの
山奥やまのおくに神器しんぎと又も移うつ置お

く此時このときは利尊氏たうらうぢの光明くわうみやう
帝ていと戴たい多た方かた、後村上ごむらうじの時とき
北朝ほくてうの崇光すくわう帝ていとやせし
南朝なんてう方かた小打うちまでして三三さんさんと

古今神鏡
とくら水又跡丹後光嚴を立
ておろし後圓融帝後小松
帝南朝方丹後龜山此
時將軍義滿等和議を

古今神鏡
とらの天皇は京都へまゐり
神器をば後小松帝に傳
へし稱先天皇後花園
後土御門の應仁以後

柏原帝かしはら後ご奈良帝なら云い
 親町かみちの世よによりありき足利氏あしかがも
 衰果おとろてお織田お八や明智あ小打ち
 孝たかとと羽柴は秀吉ひでよし之のを

打うちち其その他たの諸將しよしやうとと從まて
 天下てんか始はじめて一統いつとうせり此こをを支し
 那なまで名なも高たか麗れい豐ほう臣しん太たい
 岡秀吉おかひでよしも後陽成ごやうせいの時とき

子まゝ、秀吉明と朝鮮

了戦ふなり、病をてばて

なる、後、兵解けて徳川

前田秀頼と助る約束堅

うと、石田の諸將と戦ひて、

徳川大に勝利を得天下

再一統し、家康以来将軍

と、幕府を江戸に

おく、後水尾の時大坂め、

軍丹莚豆臣滅ひたり明正

天皇女天皇、後光明帝

後西院靈元東山中法門

櫻町帝、桃園帝、後櫻

町ハ女帝、なり、後桃園

帝光格帝、仁孝、明

今上、乃至りて幕府政

權けんとと一いち列藩りやくばん後ご世よに

復古ふこ一新いちん東京とうきょうと皇居くみやう

と定さだめ何事なにことも知識ちしきと

廣ひろめ公道こうどうふ基もとと人の御み

誓言せんげん文ぶん其績そのしんは古ふるに照あてりて

後のち少すくも耀あやるん

細川氏藏版

明治八年再版

古今類聚

